

「地域子ども教室推進事業」と居場所づくり

文部科学省では、心身ともにたくましい次世代を担う子どもたちを社会全体で育むため、地域の大人の教育力を結集し、子どもたちがスポーツや文化活動などの多彩な活動ができる場づくりを支援することとしています。具体的には、平成16年度から「子どもの居場所づくり新プラン」を策定し、新規に「地域子ども教室推進事業」をたちあげました。この事業は、学校等を活用し、緊急かつ計画的に（3か年計画、平成16年4,000校）に子どもたちの居場所（活動拠点）を整備し地域の大人の教育力を結集して、子どもたちの放課後や週末におけるスポーツや文化活動など、さまざまな体験活動や地域住民との交流活動等を支援することをねらいとしています（資料①）。

都内でも、27区市町の実行委員会・運営協議会が「地域子ども教室推進事業」を実施しています（資料②）。

ここでは、継続的に子どもたちの体験活動等の機会を提供することをめざす、三鷹市地域子ども教室の事例を紹介します。

子どもたちに豊かな体験の場を！

～三鷹市地域子ども教室～

三鷹市では、平成15年度から実施してきた「地域子どもクラブ」や校庭遊び場開放、学校図書館の地域開放等の実績をいかして、地域子ども教室を平日の放課後や土曜日に実施しています。各小学校に実施（地区）委員会をつくり、新しい遊び場づくりが市内の全15市立小学校で始まりしました。各校の実施（地区）委員会の構成メンバーには、PTA等保護者会、学校校庭遊び場開放実施委員会、地域子どもクラブ実施委員会をはじめ地域の青少年育成団体等が参加、学校を拠点とした遊び場づくりを検討し、事業の企画・運営を行っています。

各地域子ども教室では、「あそびバナナ」「中原はちのすけクラブ」「羽沢るんるん」など子どもたちから名称を募るなど、親しみやすい名前でも自由なあそびの居場所づくりが始まっています。

活動は、それぞれ地域性をいかした特色ある内容を展開しています。たとえば、ソフトバレーボール、スポーツチャンバラ、ビリヤード、ミニテニス、ラグビー、サッカー、タッチフットボール、点字、ハングル、陶芸、ビーズ、キッズダンス、科学遊び、読み聞かせ、パソコン、地域探検、一輪車、バルーンアート、七宝焼き、料理、新体操…などクラブ系のほかに自由に過ごせるフリースペースの設置など、15の小学校が多彩なプログラムの実施を工夫しています。指導者には、さまざまな分野の特技をもつ地域の人たちが協力するほか、一輪車の世界選手権出場選手などその分野のプロに依頼することもあります。子どもたちの豊かな体験の場を広げていくために、各実施（地区）委員会では、地域のネットワークをフル活用して実施に取り組んでいます。

三鷹市地域子ども教室では、今後の課題として、①他団体（青少年対策地区委員会や交通安全対策地区委員会など）や、学校を活動の場として利用している自主グループ等との連携を図り、学校を拠点とした地域の安全・安心な子どもの居場所、遊び場づくりを行っていくこと、②子どもの居場所づくり・地域子ども教室の賛同者および協力者を増やしていくこと、以上のふたつをあげています。

問い合わせ先：三鷹市教育委員会事務局教育部生涯学習課 TEL 0422-45-1151 内線3312